



第200號 (第 18 卷)

(昭和12年) 12 月號

岡林滋樹君へ A. A. V. S. O. 金牌來る

(此 の 頃 の 話 題)

山 本 一 清

神戸に在住する本會員岡林滋樹君が昨1936年10月4日の夕暮れ、「射手」星座の中に一つを新星(Nova)を發見したことは、いち速く本誌や、急報、ブレン等にも報じた所であるし、又、昨年度の本會總會に於いて、特に其の功績を表彰したところであるが、最近(去る10月4日)米國變星觀測者協會(A.A.V.S.O.)の總會に於いて、岡林君へ金牌を賞與する件が決定し、同月末、筆者の所へ、同協會書記レオン・カンベル氏から手紙が來て、

“岡林君へ贈る金牌は既に作製され、文字等も彫り込まれたので、貴國に於いて御都合良ければ、御返事次第、直ちに貴下へ向け發送する。………
適當な機會に於いて同君に之れを授與して頂きたい”云々、

といふことが書いてあつた。

そこで、筆者は直ちに岡林君に此のメデタイニウスを知らせ、カンベル氏へは受諾の電報と手紙を發送し、又、他とも種々協議の結果、愈々來る12月11日午後、大阪市四ツ橋のプラネタリウムのドーム内に於いて、本會主催の下に、同君への金牌授與式を舉行することに決定した。當日は關西の學界や一般社會名士を招くのみならず、東京其他の方面から諸名士の臨席を乞ひ、同君の名譽と共に、學術獎勵を期する豫定である。

さきに長野縣の五味一明君がトカゲ座新星發見のために今年の春之れと同様な金牌を授與されたことがあつた。岡林君は本邦人として第2回目であるが、五味君の場合には世界中に同じ星の發見者が多くあつたのに、岡林君の星は同君が唯一の發見者たることが興味深い。